＜小学校　学級経営＞

その子らしさを生かす学級経営をめざして

―― 構成的グループエンカウンターを通して ――

南風原町立翔南小学校教諭　島　袋　　健

目　　次

Ⅰ　研究テーマ設定の理由 …… 51

Ⅱ　研究仮説 …… 51

Ⅲ　研究の全体構想図 …… 52

Ⅳ　研究内容 …… 53

1　学級経営の意義 …… 53

2　学級経営の内容 …… 53

3　「構成的グループエンカウンター」とは …… 53

4　児童理解と学級集団の特性を理解する方法 …… 53

5　学級の特性 …… 56

6　本学級に必要なエクササイズ …… 56

Ⅴ　授業実践 …… 56

1　指導計画 …… 56

2　実践内容 …… 57

3　授業実践の評価 …… 58

4　実践についての分析と考察 …… 59

Ⅵ　研究の成果と今後の課題 …… 60

＜小学校　学級経営＞

その子らしさを生かす学級経営をめざして

―― 構成的グループエンカウンターを通して ――

南風原町立翔南小学校教諭　島　袋　　健

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

児童は学校生活の多くを，学級という枠の中で過ごしている。その中で，勉強をしたり，遊んだり，多くの活動を行ったりしている。児童がお互いに支え合えることができるようにするためには，教師と児童，児童と児童の人間関係が重要であるとともに，児童一人ひとりをあるがままに受け入れる学級の雰囲気が大切である。お互いに支え合えるようになると，学校生活のあらゆる場面で，児童が心を開き，自己主張をし，自己を自由に表現できるようになる。

ところが小学校の高学年になってくると，仲間から承認されるか，不承認されるかが行動の規範となりがちである。そのため，他人から，変わった人だと思われたくないばかりに，自分の考えを主張しなかったり，嫌われたくないために多くの人の意見にあわせてしまったりする。そして相手の考えに反対もしない。しかし，自分の考えを他人に反対されると不快を感じるといった傾向がある。さらにこの時期の児童は，仲間への忠誠心が強い反面，仲間以外の者に対して排他的になりやすいといわれている。

そのような発達段階の中で，自分の気持ちを伝えられなかったり，歪んだ人間関係を形成したりして，友だちができない，遊べない，いじめられるなどの仲間関係で悩んでいる児童も少なくない。学校には来ているものの，意欲に乏しく，意味や価値を見いだせないでいる場合も多い。中には，学校へ行くのがいやになるといった登校拒否的症状にまで進むケースもあり，たくましく生きる力が失われつつある。

ここで，これまでのわたしの学級を振り返ってみると，

・授業中に挙手をする場面があると，まわりの様子をうかがってから挙手をする児童
・自己主張ができないために児童の輪から外れている児童
・相手の気持ちを考えない発言や行動をとる児童
・グループをつくって，他の仲間を受け入れない児童

が存在していた。

学級担任は，早期に児童理解を深め，児童相互のコミュニケーションや人間関係を円滑にするとともに，全ての児童が学級内での自分の存在の意味や価値を見いだすような手だてと，学級の集団をまとめる手だてを講じ，受容的な雰囲気のある学級をつくる必要がある。

そのような学級の雰囲気づくりをするためには，児童が本当の自分らしさを出し，その状態を認識しながら，自己受容することである。自己受容するために必要なことは，学級内の人間関係を通して，学級が自分を必要としているという自尊感情を高めることである。その自尊感情を高める手だてとして「構成的グループエンカウンター」という方法がある。

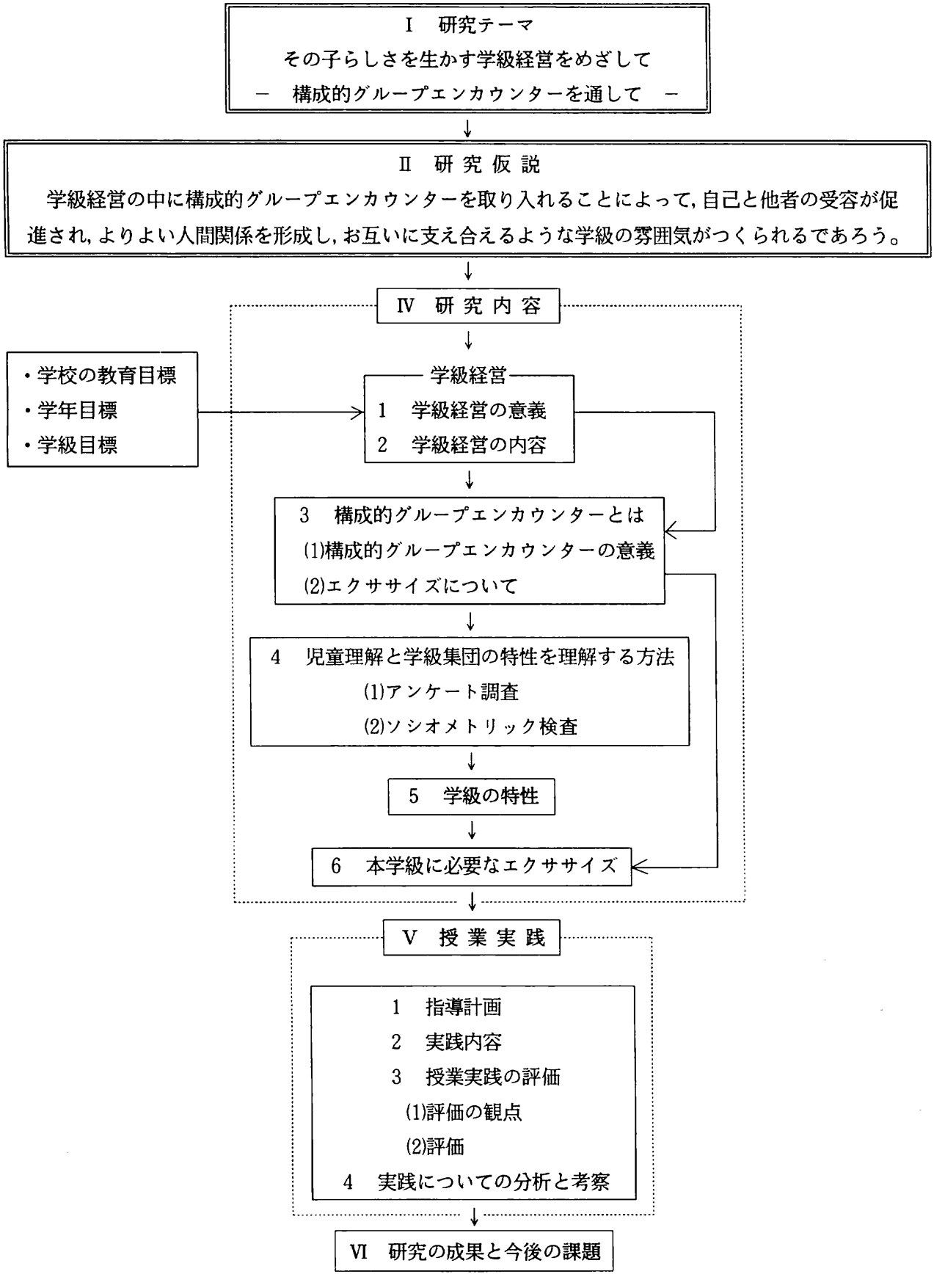
この「構成的グループエンカウンター」を学級経営の中に導入することによって，児童同士及び児童と教師間にあたたかな人間関係が形成され，自分の気持ちを伝えられない児童や，人間関係で問題を抱えた児童が発生するのを予防する学級の雰囲気をつくることができるであろう。さらに，綿密な学級経営計画の中に，一人ひとりの児童の多様な能力が表現されるような場を数多く設けることで，持ち前の力を十分に発揮し，その子らしさが生きてくるであろう。

その子らしさを生かす学級経営の工夫として「構成的グループエンカウンター」を経営の中に取り入れ，児童一人ひとりが，お互いに支え合えるような学級経営をするために，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究仮説

学級経営の中に構成的グループエンカウンターを取り入れることによって，自己と他者の受容が促進され，よりよい人間関係を形成し，お互いに支え合えるような学級の雰囲気がつくられるであろう。

Ⅲ　研究の全体構想図


Ⅰ　研究テーマ
その子らしさを生かす学級経営をめざして
－　構成的グループエンカウンターを通して　－
Ⅱ　研究仮説
学級経営の中に構成的グループエンカウンターを取り入れることによって，自己と他者の受容が促進され，よりよい人間関係を形成し，お互いに支え合えるような学級の雰囲気がつくられるであろう。
Ⅳ　研究内容
・学校の教育目標
・学年目標
・学級目標
学級経営
1　学級経営の意義
2　学級経営の内容
3　構成的グループエンカウンターとは
(1)構成的グループエンカウンターの意義
(2)エクササイズについて
4　児童理解と学級集団の特性を理解する方法
(1)アンケート調査
(2)ソシオメトリック検査
5　学級の特性
6　本学級に必要なエクササイズ
Ⅴ　授業実践
1　指導計画
2　実践内容
3　授業実践の評価
(1)評価の観点
(2)評価
4　実践についての分析と考察
Ⅵ　研究の成果と今後の課題

Ⅳ　研究内容

1　学級経営の意義

下村は,『学級経営実践講座１学級経営の基礎・基本』において,「学級経営とは,学級において,児童・生徒の学習が有効に成立するように,人的・物的・運営的諸条件を統合的な見地から整備・調整する作用である。」と述べている。

学校生活の大半を学級で過ごす児童は,教師に自分の個性や可能性を最大限に生かしてほしいと願っている。教師は,その願いに応えるため,日々の学級経営において人的・物的・運営的な諸条件の整備・調整を怠ってはならない。すなわち学級経営をきちんと行えば,児童の個性と可能性が最大限に発揮される学級になると考えられる。

それでは整備・調整の対象となる人的・物的・運営的な諸条件とはどのようなものだろうか。以下に述べる。

2　学級経営の内容

学級経営を行うにあたり,整備・調整の対象となる人的・物的・運営的諸条件は大まかに整理すると以下のような事項がある。

人的条件	グループ編成,係活動,リーダーとフォロワー,子どもの交友関係などの児童に関わる問題
物的条件	教室の採光・通風・保温・教室環境の工夫,座席の決め方などの学習環境に関わる問題
運営的条件	学級の決まり,朝の会,終わりの会,休み時間・放課後,教育相談,学級通信,家庭との連携・協力,学級事務などの学級運営に関わる問題

（『学級経営実践講座１学級経営の基礎・基本』下村哲夫より引用）

3　「構成的グループエンカウンター」とは

(1)　「構成的グループエンカウンター」の意義

構成的グループエンカウンターとは,リーダーが用意したプログラムによって,エクササイズと呼ばれている,作業・ゲーム・討議などを通して,心のふれあいを深めて行く方法である。

構成的グループエンカウンターは思いやりや気配り,自己主張能力を育む効果を持っており,自己と他者の受容を促進してよりよい人間関係を築くとともに,ふれあいのある学級集団を育成する手段として有効である。

(2)　エクササイズについて

エクササイズは,たくさん開発されているが,大きく分けて次の５種類のねらいをもつものに分けられる。自己理解,他者理解,自己受容,信頼体験,感受性の促進である。これらのねらいをもつエクササイズを実施活用し,学級経営を進める。

エクササイズを実施するにあたり,まず,学級の特性を確認する必要がある。その特性に応じてエクササイズをいくつか選択する。さらに,選択したエクササイズの中で,参加させることに無理がある児童の検討をする。例えば,みんなの前で発言することを苦手としている子に,発言を必要とするエクササイズをいきなり行うのは無理がある。児童に心的な外傷を与えずに,エクササイズを活用すれば,学級集団は発達し,ふれあいのある学級集団が育成されることになる。そのような学級集団での生活を通して,児童一人ひとりが持ち前の力を十分に発揮して,その子らしさが生きてくる。

したがって,構成的グループエンカウンターを活用するためには,児童理解と,学級集団の特性を把握することは,必要不可欠な準備である。

4　児童理解と学級集団の特性を理解する方法

学級経営を行うにあたり,児童一人ひとりを理解することは大切なことである。一人ひとりの特徴や傾向を理解することで,その児童の実態に応じた対応ができると同時に,その児童の個性と可能性を引き出すことができる。一方,児童は自分の所属する学級から様々な影響を受けている。したがって,一人ひとりの児童を理解するためには,児童の交友関係や学級集団の特性を理解することも大切である。そこで,アンケート調査とソシオメトリック検査を行い,児童理解の手立てとした。

(1) アンケート調査

児童一人ひとりが学級集団に適応して行けるような指導，あるいは個性を伸ばすための指導を行う手だてとしてアンケート調査を行った。アンケートの質問項目は次の７つの観点から独自に作成した。

①学級に対する意識に関すること
②自己主張に関すること
③担任との人間関係に関すること
④友人関係に関すること
⑤学級での所属感に関すること
⑥自己・他者受容に関すること
⑦不登校に関すること

〈アンケート結果の分析〉

アンケート結果を分析すると，下の表のようになった。（表１）
※設問の内容と具体的な結果については表５を参照。

表１　アンケート結果の分析

観点	分　　析
①	全体の９割以上が学級が楽しいと答えていることが分かる。しかし，「学級はまとまっている」と「男女は協力的である」という設問に対して，「はい」と回答した児童は少ない。男女の仲の良さに関しても学級全体の約半数の児童が仲が良いとは思っていないようである。この結果より，「学級は楽しいが，男女協力的でなく，まとまりがない。男女の仲も良いというわけではないと感じている児童が多い」という学級像が浮かび上がってくる。
②	自分の意見を堂々といえる児童が少なく，発表や発言をする雰囲気が形成されていないのではないかと予測される。
③	担任の先生と話しやすく，さらに先生は自分の事を助けてくれると信用している児童が全体の約９割いる。 この結果より，児童と担任との人間関係はうまくいっていると考えられる。
④	学級の半数以上が決まった遊び仲間がいて，友人関係が固定化していると考えられる。しかし，「決まったび仲間には，新しい仲間は入れたくない」という設問に対しては，学級でわずか１人と，学級のほとんどは新しい仲間を受け入れる気持ちがあることが分かる。ところが，「私は誰とでも仲良くできる」と回答した児童が学級の過半数おり，新しい仲間を受け入れても，仲良くできるかどうかは別問題のようである。 全体の約４割は相手の気持ちを考えずに言葉をつかっていると考えられる。 全員が，学級に仲の良い友だちがいると答えており，味方になってくれる人が必ずいることがわかる。
⑤	集団の中で自分のやるべきことがあることを自覚している児童が多く，学級の中に自分の居場所を見いだしている児童が多いと考えられる。
⑥	学級の中にいやな人がいたり，自分が誰かに嫌われていると考える場合，学級での生活は楽しいとは言い難いだろう。少数ではあるけれども，自分も他人も受け入れられるような学級の雰囲気づくりによって，このような児童はいなくなるであろう。 「みんなは，自分のことをよく分かっていない」と感じている児童が学級の約半分もいることになる。
⑦	アンケートの問16と問17の回答結果より，不登校傾向の児童はほとんどいないと考えられる。しかし，「学校に行きたくないことがよくある」と回答した児童に関しては，本人とよく話し合い，原因を明らかにし，何らかの方策を講じる必要がある。

(2) ソシオメトリック検査

学級集団の生活の中で，人間関係（排斥や被排斥）や交友関係（仲良し）を知るとともに，学級での生活をすべての児童により楽しく，より快適なものに調整し改善することをねらいとして実施した。

〈検査結果の分析〉

- 男女それぞれの下位集団を形成している。発達段階からみて，異性間の反発傾向の多い時期の特徴を示している。よさを認め合える雰囲気を作り，修正したい。
- まとまっている学級では下位集団の数が少なく，さらに男女の多数が含まれている場合，その学級はまとまっているといえるが，本学級では下位集団が5つの集団から構成されており，学級がまとまっているとは言い難い。どちらかといえば分裂の傾向である。この傾向を学級経営の工夫・改善によって，修正して行きたい。
- 学級集団の発達の遅れた学級ほど孤立児が多いが，本学級では孤立児がわずか一人だけであり，発達はおくれていないといえる。しかし，集団から孤立しているということは，学級の中で不利な地位にあることであり，いろいろな面で問題が出てくる。したがって，孤立児を救うことが集団指導の大切な仕事である。そこで，この児童のもっているよさを最大限に生かすことで，学級のみんなから認められるようにしてあげたい。
- 周辺児が3人いるが，それぞれ，自己を選択している人を無視してしまっている。この3人は，自分に親和感を抱く相手に気づかないか，あるいは気づいてもそれを受け入れないかである。あと少しで下位集団の成員になれるので，その事情を配慮した学級経営を行う必要がある。

5　学級の特性

アンケートとソシオメトリック検査の分析の結果より，本学級は以下のような特性があると考えられる。特性を「よい点」と「問題点」に分けてみた。

よい点	問題点
・学級は楽しいと感じている児童が多い。 ・担任と児童の人間関係はうまくいっている。 ・新しい仲間を受け入れる気持ちのある児童が多い。 ・学級で自分の仕事や役割のある児童が多い。 ・不登校傾向の児童がほとんどいない。 ・全員，学級に仲のよい友達がいる。	・男女の仲は良くなく，協力的ではない。 ・学級にまとまりがない。 ・自分の意見をはっきりと相手に伝えられない児童が多い。 ・学級の中にいやな人がいると感じている児童が多い。（特に女子） ・自分のことを分かってくれていないと感じている児童が約半数である。 ・誰とでも仲良くできる児童が少ない。 ・自分に親和感を抱いている人に気づかない児童が3人いる。 ・誰からも相手にされていない児童がいる。

以上の結果から，本学級の問題は人間関係に関するものが多く，その次に自己主張に関するものが多い。このままでは，すべての児童が学級内で持ち前の力を十分に発揮し，その子らしさを生かすことはできない。そのような状態が続くと，現在はよい点となっている所もだんだんと崩れ，学級が楽しくない，担任との人間関係がうまくいかない，不登校の増加，友達がいない，友達を排斥する，学級でやるべきことがない子の増加など，新たな問題が出てくる可能性もある。

そこで，本学級における目標を以下の2つに絞り，その目標を達成できるような学級経営を展開して行きたい。

- あたたかな人間関係の形成と回復
- 自己主張のできる子どもの育成

6　本学級に必要なエクササイズ

アンケート調査とソシオメトリック検査による児童理解と学級集団の特性を踏まえ，「あたたかな人間関係の形成と回復」，「自己主張のできる子どもの育成」という目標を達成するため，本学級では，『エンカウンターで学級が変わる・小学校編』と『構成的グループエンカウンター』を参考に，以下の5つのエクササイズを選択し，活動案を作成してエクササイズを実践した。（表3）

表3　実践したエクササイズ名及び種類

エクササイズ名	種　　類	目　　的
ご指名ですゲーム	信　頼　体　験	・学級内でのリレーションを深める。 ・小グループで協力し合って番号をかけ合う中で，協調性を高め，人間関係を深める。
聖徳太子ゲーム	信　頼　体　験	・一人ではできないことも，何人かで協力すればできるということを体験しながら新しい人間関係をつくる。
人間椅子を作ろう	自己・他者理解	・クラス全員の協力と団結によって，課題を達成する喜びを味わう。 ・各グループ及びグループで協力して課題を達成する過程で，グループ内及びグループ間で起こる出来事や，自分の気持ちの動きに気づく。
私はわたしよ	自己・他者理解	・自分の個性に誇りを持ち，友だちの個性についても尊重する。 ・お互いの思いがけない面を知ることによって，親しみを増す。
無人島ＳＯＳ	自己・他者理解	・自分の考えを知り，伝え合う表現力を養う。 ・多様な考えに気づき，お互いを認め合える人間関係を築く。

Ⅴ　授業実践

1　指導計画

右の実施計画に従って各エクササイズを実施した。（表4）

いきなり自分の感情を抑圧せずに自己の開示を必要とするエクササイズ，例えば発言を求めたり意見を言わせたりするものを実施すると，抵抗を感じる児童が出てくる可能性があるので，まずは，楽しい雰囲気を作るエクササイズからスタートし，少しずつ自己を開示して行けるような内容になるように工夫した。

表4　実施計画

実施日	エクササイズ名	活動時間
6／1(月)	ご指名ですゲーム	帰りの会（15分間）
6／12(金)	聖徳太子ゲーム	帰りの会（15分間）
6／20(土)	人間椅子を作ろう	学級活動（4校時）
6／24(水)	私はわたしよ	学級活動（5校時）
7／9(木)	無人島ＳＯＳ	学級活動（3校時）

2　実践内容

「無人島ＳＯＳ」活動案

1. エクササイズ名　「無人島ＳＯＳ」

2. 目的

◎自分の考えを知り，伝え合う表現力を養う。

◎多様な考えに気づき，お互いを認め合える人間関係を築く。

3. グループの規模

生活グループ単位

4. 準備

ワークシート（状況説明の話，選択した品物，その順位を書く）

選択肢となる持ち物の拡大一覧表　筆記用具　振り返り用紙

①今日のエクササイズの説明

・船が遭難したうえで，無人島に漂着したという設定で，生き延びるために必要な物を次の中から８つ，自分なりに順番をきめる。

ナイフとフォーク・マッチ・なべ・おの・ウイスキー・ロープ・海図・テント・毛布 時計・ラジオ・薬セット・さいほう道具・カメラ・タオル・紙とえんぴつ・望遠鏡 つりざお・かいちゅう電灯・かんづめ

②グループになって話し合い，理由も添えてグループの意見をまとめる。

③答はひとつではないことを確認して，全体で質問しあう。

④自分たちの意見を再検討する。

時間	活動と内容	留意点
5分	(1)今日の課題について知らせる。 「今日は大変なことに出会ったとき，どうやったら生き延びられるのかをみんなで考えてほしいと思います。今からどんな大変なことが起きたのか話しますからよく聞いてください。」 (2)状況説明のお話を読む	・自分自身のこととして考えて聞けるように，話の読み方を工夫する。
30分	「さて，島で生き抜く生活をするため，または島から脱出するためには，いったいどのようなものが必要でしょうか。次の中から，あなたがもっとも大切だと思うものを８つ選んで，必要と思う順に番号をつけてください。どんな物の中から８つ選ぶのか，順番に言いますからよく聞いてください。」（一つ一つ黒板に書く） (3)ワークシートを配る。 「それではまず始めに自分一人で大切だと思う順に１番から８番まで番号をつけてください。理由を考えながら記入しましょう。」 (4)ワークシートに記入する。 「では，グループを作り自分のつけた番号を発表し合ってみましょう。その時，その品物を選んだ理由を教えてあげてください。」	・品物の中で意味の分からない物はないかどうか質問する。 ・おしゃべりではなく

	「お互いの意見を聞き合ったら，次のグループで話し合ってあなたたちのグループが持って行くものを８つ決めて理由も書いてください。」 (5)ワークシートと発表ボードに記入する。 「それでは各グループに発表してもらいます。」 (6)発表する。 「今の品物リストについて何か質問はありませんか。」 (7)各グループとも次々に発表して行く。全体の発表を聞いた後に，もう一度グループで話し合わせる。ワークシートと発表ボードに記入する。	話し合いになるように注意する。 ・答は一つではないことを確認し，自分達の意見に自信を持てるように支援する。 ・友だちの意見に対してばかにした態度をとるのではなく，大切な意見として尊重し合えるような雰囲気づくりをする。
10分	「みんなで話し合って，いろいろな意見が出されましたが，今日の話し合いの感想をプリントに書いてみましょう。」 (8)今日の話し合いの感想を書き，書いてもらった後，発表する。	

〈配慮した点〉

・話し合いの時に自分の意見をまとめて，自信をもって発表できるようにワークシートを準備した。
・グループの中で，人が発表をしているときは，絶対に口をはさまないで聞くように注意した。
・話し合いが進まないグループには，どこでつまずいているのかを聞き，個別に指導した。
・進むのが遅い子には，あわてずに考えるよう指示した。

3　授業実践の評価

(1)　評価の観点

本エクササイズのねらいをもとに，以下の三つの観点より児童の評価を行った。

①自分の考えを相手に伝えることができたか。
②一人ひとりの多様な考えや意見に気づいたか。
③他人の考えを受け入れながら話し合いをすることができたか。

(2)　評価

・どの児童も一生懸命自分の考えをワークシートに書き込むことができた。
・ワークシートに書き込んだ自分の意見をもとにグループでの話し合いを行うことができた。
・振り返りのときに，一人ひとりがちがう意見だということに気づいた児童が多かった。（図１）
・グループの意見のまとめ方は自由にしたので，誰かがリーダーになって話し合いを進めたり，挙手やジャンケンによって採決を行うことができた。
・多様な考えや，他人の考えを取り入れながら，話し合いを進めていくことができた。

振り返り用紙

－無人島ＳＯＳ－

「無人島ＳＯＳ」いかがでしたか？
やっと終わった？　もっとやりたい？　楽しかった？　つまらなかった？
どんな「気持ち」も，みんなあなたの宝物です。
そんなあなたの気持ちを教えてください。
今の気持ちを，そのまま書いてください。

☆次の文のあとに続けて，あなたの気持ちを書いてください。

1．わたしが（ぼくが）楽しかったのは
7人7人がちがういけんだったから。

2．わたしが（ぼくが）おどろいたのは
みんなのいけんが，1つにまとまったこと。

3．わたしが（ぼくが）がっかりしたのは
私が一位と思ったものが，四位などにきたから。

4．わたしが（ぼくが）気づいたのは
みんなの意見がちがうから。

使った漢字の数（14）こ　　77番　名前（神谷友美）

図１　振り返り用紙

4　実践についての分析と考察

本研究では，「学級経営の中に構成的グループエンカウンターを取り入れることによって，自己と他者の受容が促進され，よりよい人間関係を形成し，お互いに支え合えるような学級の雰囲気がつくられるであろう」という研究仮説のもとに実践を展開してきた。人間関係というのは目に見えるものではないので，評価が難しい。そこで，構成的グループエンカウンターを学級経営の中に導入する前と後では，児童がどのように変化したのか，同じ質問のアンケートをとってみた。

結果は以下の通りである。（表５）

表５　構成的グループエンカウンターの導入前と導入後の比較

問　　題	アンケートに「はい」と回答した人の割合（%）								
	男　子			女　子			全　体		
	導入前	導入後	変動	導入前	導入後	変動	導入前	導入後	変動
1　自分の学級は楽しい	88.9	100.0	↑	100.0	100.0	－	93.9	100.0	↑
2　男女の仲が良い	38.9	16.7	↓	60.0	26.7	↓	48.5	21.2	↓
3　学級はまとまっている	33.3	66.7	↑	40.0	66.7	↑	36.4	66.7	↑
4　男女は協力的である	33.3	22.2	↓	6.7	40.0	↑	21.2	30.3	↑
5　学級で自分の思ったことが言える	22.2	61.1	↑	26.7	46.7	↑	24.2	54.5	↑
6　授業中，自分から進んで発表できる	38.9	44.4	↑	6.7	26.7	↑	24.2	36.4	↑
7　担任の先生と話しやすい	88.9	88.9	－	100.0	80.0	↓	93.9	84.8	↓
8　担任の先生は私が困ったとき，助けてくれる	100.0	88.9	↓	73.3	66.7	↓	87.9	78.8	↓
9　自分たちだけの決まった遊び仲間がある	61.1	61.1	－	73.3	60.0	↓	66.7	60.6	↓
10　決まった遊び仲間には，新しい仲間は入れたくない	0	0	－	6.7	20.0	↑	3.0	9.1	↑
11　相手の気持ちを考えて言葉を使っている	66.7	66.7	－	60.0	73.3	↑	63.6	69.7	↑
12　学級で自分の仕事や役割がある	83.3	88.9	↑	86.7	100.0	↑	84.8	93.9	↑
13　私は誰とでも仲良くできる	50.0	33.3	↓	60.0	60.0	－	54.5	45.5	↓
14　学級の中に，いやな人がいる	27.8	44.4	↑	73.3	66.7	↓	48.5	54.5	↑
15　私は学級の誰かに嫌われている	5.6	11.1	↑	20.0	20.0	－	12.1	15.2	↑
16　学校に行きたくないことがよくある	16.7	0	↓	0	13.3	↑	9.1	6.1	↓
17　学校に行くときに，よく頭痛や腹痛が起こる	0	11.1	↑	0	6.7	↑	0	9.1	↑
18　学級のみんなは私のことをよく分かってくれている	66.7	66.7	－	46.7	53.3	↑	54.5	60.6	↑
19　学級の中に仲の良い友達がいる。	100.0	100.0	－	100.0	100.0	－	100.0	100.0	－

構成的グループエンカウンターを取り入れる前と後の数値には上昇した項目も，下降した項目もある。数値の変化は構成的グループエンカウンターの導入のみに原因があるとはいえない。学級経営は，それだけで行うことはできないからである。さて，変化した項目で，よい学級の雰囲気が育った部分と，これから育てる必要がある部分を取り上げて考察してみる。

(1)　学級の雰囲気が育った部分

- 子どもが学校にくる理由の一つとして学級が楽しいということがある。本学級では，学級の全体が自分の学級は楽しいと答えており，さらに学校に行きたくないことがよくあると答えた児童が減少した。
- 男女が協力的になったと感じている児童が全体的に増えた。
- 自分の思ったことがいえるようになった児童と授業中に進んで発表できるようになった児童が確実に増えており，自己主張能力が高まった。
- 決まった遊び仲間があると答えた女子が減った。高学年女子は小集団を作りがちな傾向があるが，特定の仲間とだけ付き合うのではなく，他の友だちとの交友関係を広げつつあると考えられる。
- 相手の気持ちを考えて言葉をつかう児童が増えており，他者理解が進み，思いやりの心が育ってきた。
- 学級での自分の仕事や役割を自覚している児童が増えており，集団への所属感が高まっている。

・学級のみんなは私のことをよく分かってくれると考える児童が増えており，自分はみんなに受容されていると感じている。

(2) 学級の雰囲気を育てる必要がある部分

・男女の仲が良いと感じている児童が減少した。表向きは仲が良いように見えるが内面的な部分で，お互いに排斥しているようだ。これは異性を意識しはじめる高学年の特徴からこのような結果になったと思われる。

・担任の先生との人間関係に関する項目では，先生と話しやすい児童，先生は困ったときに助けてくれるという質問に「はい」と答えた児童が減少している。児童の話にじっくり耳を貸してあげる必要があると思われる。

・決まった遊び仲間には，新しい仲間は入れたくないと答えた女子が増加している。それから，誰とでも仲良くできる児童が減少している。2つを併せて考えると，新しい仲間に対しては少し距離を置いて付き合おうとする気持ちがあると思われる。

・学級の中にいやな人がいるという男子と，誰かに嫌われていると感じている男子が増加している。原因として，いじめのようなものが背景にあるのではないだろうか。

・学校に行くときに，頭痛や腹痛が起こる児童が男女とも増加している。ほんのわずかだが見逃してはならない結果である。本人とよく話し合い，不登校の傾向がないかどうかチェックする必要があると思われる。

さて，学級の雰囲気を育てる必要がある部分に挙げられた，男女の仲の問題や，担任との関係，友人関係，いじめの問題，不登校の問題などは，構成的グループエンカウンターという経営手段のみでは，解決できるものではない。構成的グループエンカウンターは，あくまでも学級経営の一つの手段であり，これ一つで学級の雰囲気を高めて行けるという万能な手段ではない。それゆえ，他の経営方法を取り入れる必要があるし，教科との関連を考慮に入れたり，道徳や特活との連携を図る必要がある。そうすることによって，学級の雰囲気をより効率よく高めていくことができるであろう。

Ⅵ　研究の成果と今後の課題

1　成果

(1) 学級経営の理論を研究したことで，学級経営に対する理解が深まり，教師の役割を振り返ることができた。

(2) 構成的グループエンカウンターという技法を研究し実践したことで，学級経営の新たな分野について見聞が広まった。

(3) 授業実践では短期間で集中的にエクササイズを行ったが，児童の自己主張能力が明らかに高まった。

(4) 授業実践で児童は，どのエクササイズも楽しそうに取り組んでいた。

(5) 理論研究の方法や，検証授業までの過程，さらには資料活用の方法が分かった。

2　今後の課題

(1) 学級の雰囲気を高めるためのエクササイズの年間指導計画への位置づけ。

(2) 構成的グループエンカウンターのさらなる実践と理論研究。

(3) 学級の雰囲気を育てる必要のある部分にどのような経営方法で取り組んで行くか。

(4) 特にいじめや不登校についての早期発見・早期治療の方法を研究し，学級経営に取り入れて行きたい。

《主な参考文献》

萩原繁夫・三浦健治共編	『ひとりひとりを生かす学級経営』	文教書院	1990年
国分康孝編	『構成的グループエンカウンター』	誠信書房	1992年
下村哲夫・天笠茂・成田國英編著	『学級経営の基礎・基本』	ぎょうせい	1994年
国分康孝監修	『エンカウンターで学級が変わる』	図書文化	1996年